

冬季積雪時の市道の融雪段差を防止し、交通の円滑化等を図るため、  
市道の下水道マンホール蓋の断熱化推進を求める請願

令和 8 年 2 月 20 日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市勝田一丁目 12 番 14 号  
藤田 繁行

紹介議員 蛭名 和子  
藤田 誠  
小熊 ひと美

(請願の趣旨)

青森市は「世界一の豪雪都市」とも言われており、豪雪を克服するためにこれまでも様々な施策が実施されてきたにもかかわらず、寒波が居座るなどして集中降雪を見る際には除排雪が追いつかず、道路状況が著しく悪化した状態が相当の期間にわたり続くことがある。これまで長年にわたり除排雪の方法等について様々な論議がなされてきたところであるが、決め手となるような克服策を得るには至っていないところであり、市民の間には何ともやりきれない閉塞感のようなものが漂っているとさえ感じる。

こうした豪雪期の道路状況の悪化は、日常的に歩行者や車両の通行に支障が出るだけではなく、災害発生時等、例えば地震を原因とする建造物の倒壊、火災発生、津波の来襲時等には、住民の避難行動を妨げるほか、緊急車両等による消火・救護・救出活動や復旧作業等の支障になることが懸念されることから、危機管理上の重大な課題でもあることにもっと思いを致す必要があると考える。

大量の降雪に伴う道路状況の悪化の内容は様々であるが、積雪そのものに加えて、道路幅の減少、路面の不規則な荒れやうねり、すり鉢状態あるいはかまぼこ状態の発生といった状況も多く見られるところである。また、これらに加えて大きな問題と考えられるのが下水道マンホール蓋部分の熱に起因するすり鉢状の大きく深い融雪段差であり、歩行の妨げになっているほか、車両のスタックによる渋滞、バンパー等車両の損壊、安全確保のための速度低下、通過時の騒音発生等々、住民のQOLを著しく低下させていると言わざるを得ない。

このような路面の融雪段差を発生させないため、札幌市や北広島市、恵庭市、山形市など多くの雪が降る自治体において施策として採用・整備され、大きな成果を上げているのが下水道マンホール蓋の断熱化である。

これを一たび整備すれば、毎シーズンその効果が必ず発現し、マンホール蓋に起因する段差は確実に相当程度解消することから、豪雪期における住民のQOL向上等に相当資すると思われる、子々孫々へ受け継がれていく極めて有用で貴重な社会資本となるものと考えられる。

このマンホール蓋の断熱化については、本市ではこれまで原則圧雪（踏み固め）除雪方式のようなものは導入していないのだから、その効果は限定的であるとして不要だとするような意見もあるようである。しかし、いわゆる「底剥がし」と言われるアスファルト路面が見えるような除雪をたとえ幾ら行ったとしても、直後から間断なく尋常ではない量の雪が降り積もり、車の通行等により瞬く間に厚い圧雪のような状態となってしまう、直にマンホール蓋部分の融

雪段差が生じてしまうというようなことが決してまれではないという本市の状況を考えると、そのような建前での不要論を主張するのは、市民の体感している現実的かつ切実な困り事から目を背けていると言わざるを得ない。さらに、今冬から必要に応じ「緊急除雪（二段階除雪）」方式の実施が始まったことも考慮すれば、ますますその有用性が高まっているとも言えるのではないだろうか。

この断熱蓋については、耐久性や経年劣化等に伴う落下の懸念等、幾つかの課題もあるということだが、実地での声等も踏まえ年々製品の改良が進んできており、様々なメーカー、様々なタイプの製品が選択できるようになってきていると聞いている。何より、例えば平成 29 年度から順次この整備を始め、何と令和 8 年度にはついに全対象への設置が完了見込みであるという札幌市のような先進的取組事例を見れば、何か決定的、致命的な問題が生じているとも考えにくい。このような他自治体の状況等も十分参考としながら、様々な製品について性能やコスト等の比較も十分に行った上で、ぜひとも導入していただきたいと考える。

なお、他方で、周知のように全国的に近年、上下水道管の老朽化等の問題が指摘されているところであり、本市においてもその更新のため多額の費用を要することが想定されていることなども踏まえ、その整備に当たっては、過大な支出とならないよう十分配慮しながら、優先度を吟味するなどして計画的に行っていただきたいと考える。

（請願事項）

市道の下水道マンホール蓋の断熱化を推進すること。